

第3回 DBJ 女性新ビジネスプラン コンペティション

株式会社日本政策投資銀行

As we move toward privatization, DBJ aspires to live up to the objectives of its corporate philosophy: "Applying financial expertise to design the future." In our view, creative financing is the key to solving problems, building the trust of our clients and achieving future prosperity. Our corporate philosophy addresses this resolve. Following on from this corporate philosophy, we have coined the "core competencies" to express DBJ-specific characteristics. The first "core competency," for "intention," expresses our ongoing dedication to a long-term perspective, neutrality, public-mindedness and reliability. The second "core competency" is for "Intellectual Assets," the experience and know-how we have

developed to date, our forward-thinking capacity and judiciousness, and our involvement in financial technologies. The third "core competency," for "networks," indicates the relationships of trust that we have with our customers, regional government bodies, cooperating companies and financial institutions. Each of our executives and regular employees will apply these "core competencies" in concert to deliver our issue-resolution capabilities and financial expertise to our customers. As in the past, rather than concentrating solely on short-term profit we remain dedicated to helping our customers shape the future through our long-term and neutral perspective.

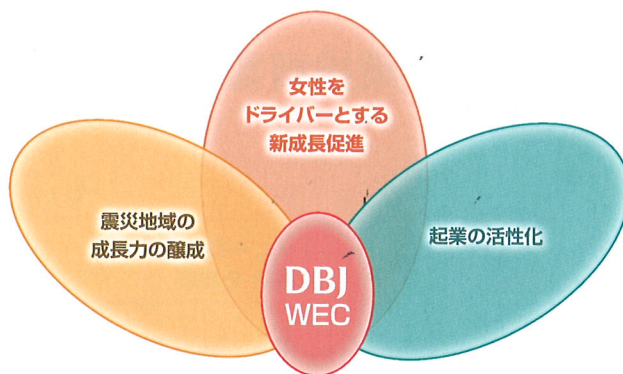
As in the past, rather than concentrating solely on short-term profit we remain dedicated to helping our customers shape the future through our long-term and neutral perspective. Through privatization, we aim to establish ourselves with the business model of a highly specialized financial institution that provides integrated investment and loan services. In the past, DBJ's operations have centered on long-term senior loans. To meet a more diverse range of customer needs, in recent years we have begun applying our expertise in screening long-term projects and increasing our percentage involvement in structured financing and fund investment. After privatization, we will enhance our investment and financing functions, providing a wide range of services that contain facets of both. In addition to providing M&A advisory services, consulting and other information services, we intend to mold ourselves into a financial institution that is unique both in Japan and overseas for conducting integrated investment and loan activities. Our primary aim is to be the financial institution of choice for our customers, as well as one they find useful. To achieve this standing, we will redouble our efforts to address thoroughly the broad range of issues our clients face. We want our customers to be pleased that we have privatized. Accordingly, each of the Bank's executives and regular employees is taking upon themselves the challenge of transforming DBJ. I ask for the continued support of our stakeholders as we move along this new path. Leveraging its greater degree of freedom to conduct leading-edge financial activities, DBJ will endeavor to resolve the issues its clients face, build their trust and work to achieve their future prosperity. The new DBJ corporate philosophy is "Applying financial expertise to design the future." The word "design" is deliberate, evincing our willingness to work in tandem with clients to help them reach their goals. DBJ is taking

The new DBJ corporate philosophy is "Applying financial expertise to design the future." The word "design" is deliberate, evincing our willingness to work in tandem with clients to help them reach their goals. DBJ is taking privatization as an opportunity to inculcate in its executives and regular employees an even more thorough "customers first" orientation. We will work assiduously to make the most of our newfound freedom to apply leading-edge initiatives to the resolution of client issues. Throughout its history, DBJ has played a variety of roles to meet the needs of the times. Making the most of our expertise and abilities, we provide financing services that suit changing social and economic conditions. In the interest of creating prosperous lifestyles, we take a long-term perspective in providing appropriate solutions to the challenges communities face, such as stimulating regional economies, building local infrastructure and building wide-ranging networks. DBJ takes a multifaceted approach to resolving corporate issues. We aim to help clients become more competitive, grow further, expand their operational bases, strengthen and stabilize their financial bases and raise brand value supporting social sustainability.

女性力を成長と変革の原動力に

経済の長引く低迷や少子高齢社会の進展、東日本大震災からの復興といった様々な課題を乗り越え、「新たな成長戦略」の実現を目指すわが国において、女性の力に期待が高まっています。女性の新たな視点によるビジネスが、わが国の新たな経済の成長と社会の変革の原動力として求められています。

この期待を実現するため、DBJ女性起業サポートセンター(DBJ-WEC)は、女性による新ビジネスの成長のための資金・起業ノウハウ、ネットワーク等を総合的にサポートしています。その一環として、DBJ女性新ビジネスプランコンペティションを開催し、メンタリングやセミナー等も展開してきましたが、この度、第3回DBJ女性新ビジネスプランコンペティションを実施し、表彰式を迎えることとなりました。



The DBJ Women Entrepreneurs Center
DBJ 女性起業サポートセンター

ご挨拶

女性の起業活動をサポートし、新しいアイデアや課題解決の視点をビジネスとして実らせ、経済の再成長、変化の芽にする。私たちは、こうした使命をもって2011年11月、DBJ女性起業サポートセンターを立ち上げ、女性の起業支援に取り組んで参りました。

これまで3回の女性新ビジネスプランコンペティションを開催、実に1,127の事業プランをご応募頂きました。多くの女性起業家と出会い、受賞者や応募者の方々と歩み、このコンペティションにしかできない女性起業家の情熱と逞しさを発信して参りました。そして、この度の第3回コンペティションでは、女性起業家の新しいロールモデル、ビジネスの広がりを発信しています。どうぞご期待下さい。

女性の起業への関心はますます高まっています。しかしながら、創業期の苦勞は今も変わりません。私たちは、新しい志をビジネスに発展させる女性経営者の挑戦を、地域や専門家の方々と連携し、これからも応援します。

皆様のご支援を引き続きよろしくお願い致します。



DBJ女性起業サポートセンター



株式会社日本政策投資銀行
女性起業サポートセンター長

栗原 美津枝

沿革

DBJ-WEC では、センター設立以来、様々な活動を実施してまいりました。

- 2011年 11月 **DBJ女性起業サポートセンター設立**
- 12月 **「第1回DBJ女性新ビジネスプランコンペティション」開始**
- 2012年 2月 「ビジネスプラン作成セミナー」開催
- 6月 **第1回コンペティション審査結果発表・表彰式**
- 7月 **「経済産業大臣と女性経営者との懇談会」出席**
NHK「クローズアップ現代」にてDBJ女性新ビジネスプランコンペティション紹介
- 8月 DBJ-WECセミナー「受賞者レビュー」開催
JICA「アフリカ地域女性起業家育成支援コース」にて研修
DBJ-WECセミナー「女性起業家は語る-先輩起業家に聴く」開催
- 9月 JICA「トルコ共和国 東部黒海地域開発庁本邦研修コース」にて研修
DBJ-WECセミナー「資本政策の考え方」「創業期の資金調達」開催
- 10月 **IMF・世銀総会にてIFC(国際金融公社)のセミナー「Women Business Leaders」にパートナーとして協力**
「人材戦略講演会 in 広島」共同開催 (中国経済産業局 他)
- 12月 「DBJの女性起業支援と第1回コンペティションの総括」にて講演 (武蔵小山創業支援センター)
「第2回DBJ女性新ビジネスプランコンペティション」開始
- 2013年 1月 「ビジネスプラン作成セミナー」開催
- 2月 「九州女性起業フォーラム2013(福岡)」出席 (九州経済産業局)
- 5月 **首相官邸「第6回若者・女性活躍推進フォーラム」出席**
ADFIAP Awards「Corporate Social Responsibility」受賞
- 6月 **内閣府「平成25年度 男女共同参画白書」にDBJ女性新ビジネスプランコンペティション掲載**
第2回コンペティション審査結果発表・表彰式
- 7月 「経営支援セミナーin仙台」共同開催 (東北経済産業局)
「ビジネスプランコンテスト オープニングイベント」にて講演 (京都市サーチパーク(株))
- 8月 DBJ-WECセミナー「受賞者レビュー」開催
JICA「アフリカ地域女性起業家育成支援コース」にて研修
- 9月 「ビジネスプランの活かし方」にて講演 ((公財)横浜企業経営支援財団)
- 10月 「平等とイノベーション、女性イノベーターと起業家達」にて講演 (スウェーデン大使館)
- 11月 DBJ-WEC&WWN(新日本有限責任監査法人)共同開催「女性起業家のためのビジネス実践講座～経営を学ぶシリーズ」開始
・ビジネスプランの意義と役割、書き方I 基礎編 (2013/11)
・ビジネスプランの意義と役割、書き方II 実践編 (2013/12)
・これだけは知っておきたい! 資金調達入門 (2014/2)
・これだけは知っておきたい! 税金入門 (2014/6)
- 11月 「九州女性起業・創業サミット」共同開催 (九州経済産業局 他)
「産業政策デザインフォーラム」出席 (仙台市)
「人材戦略講演会in広島」共同開催 (中国経済産業局 他)
- 12月 「女性起業家セミナー(松山)」共同開催 (四国経済産業局 他)
テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にてDBJ女性新ビジネスプランコンペティション紹介
NHK「くらし☆解説」にてDBJ女性新ビジネスプランコンペティション紹介
「第3回DBJ女性新ビジネスプランコンペティション」開始
「第3回DBJ女性新ビジネスプランコンペティションオープニングセミナー」開催
- 2014年 2月 「女性起業家セミナーin Osaka」協力 (近畿経済産業局 他)
- 3月 「海外展開のためのビジネス・イノベーション」にて講演 (JETRO)
首相官邸「輝く女性応援会議」出席
- 4月 **内閣府「女性の起業ビジネスコンテストチーム第1回会合」出席**
- 6月 **第3回コンペティション審査結果発表・表彰式**



第1回コンペティション表彰式



ADFIAP Awards 受賞



第2回コンペティション表彰式



オープニングセミナー

第1回 受賞者

- **大賞**
加藤 百合子氏
(株)エムスクエア・ラボ 代表取締役
- **優秀賞**
牛来 千鶴氏
(株)ソアラサービス 代表取締役
- **震災復興賞**
及川 秀子氏
(有)オйкаワデニム 代表取締役



加藤 百合子氏

第2回 受賞者

- **大賞**
吉本 桂子氏
ロイヤルブルーティージャパン(株) 代表取締役
- **優秀賞**
日野 美貴氏
(株)西日本冷食 代表取締役



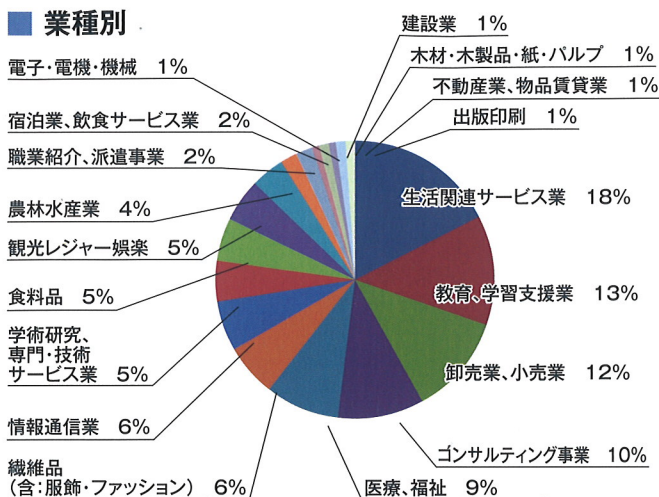
吉本 桂子氏

第3回 コンペティション応募状況

地域別

地域	応募数
北海道	13
東北	22
関東・甲信 うち東京都	176
北陸	3
東海	19
近畿	35
中国	8
四国	1
九州	29
海外	2
総計	308

業種別



ファイナリスト一覧 (発表順、敬称略)

ふるかわ ひろみ
古川 ひろ美

福岡県

キャラクター動画が、あっという間に作成できる
ソフトウェア「Smart Avatar®」の開発・販売

有限会社BOND 代表取締役

たなか みわ
田中 美和

東京都

ハイスキルマザーの力を活用した
業務アウトソーシングサービス事業

株式会社Waris 代表取締役

はしもと まさこ
橋本 昌子

石川県

医療・介護・教育のコラボレーションで高齢者が
自分らしく人生を終えるための支援

株式会社スパータル 代表取締役

ひきち めぐみ
引地 恵

宮城県

中古着物地によるリメイク雑貨製造販売事業
～感謝を包む手仕事でグローバルブランドを創る～

一般社団法人WATALIS 代表理事

よしだ りえ
吉田 理恵

東京都

～ハッピーな食事介助を目指して～
「ごっくんチェッカー」の事業展開

株式会社ハッピーリス 代表取締役

たちやま みき
太刀山 美樹

福岡県

～未来と今を担う人材育成～挑戦できる子どもと親を育てる
放課後アドバンススクール「デミル™」の展開

株式会社MIKI・ファニット 代表取締役

さかい りな
酒井 里奈

岩手県

独自の発酵技術を活用した米エタノールビジネス
～バイオマス、未利用資源を活用して高付加価値プロダクツを生み出す～

株式会社ファーマンステーション 代表取締役

みたらい たまこ
御手洗 瑞子

宮城県

気仙沼を拠点とし、ハイエンドな手編みの
セーター・カーディガンの企画・製造・販売を行う事業

株式会社気仙沼ニッティング 代表取締役

やの りえ
矢野 莉恵

ニューヨーク州

ファッション業界と直接組み、ラグジュアリーファッションを百貨店や
ブランドのギフトカードで買い取り、新規購入を促す業界初のトレードイン事業

Material Wrld, Inc. 代表取締役

ファイナリスト紹介 (発表順、敬称略)



ふる かわ
古川 ひろ美

福岡県

略歴 九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業。父親が1950年に創業した印刷会社に勤務ののち、2006年に会社を継承し、社名を「BOND(絆)」に改名。印刷技術の先駆者として常に技術革新に研鑽していた先代の精神を受け継ぎ、自らの職歴(グラフィックデザイナー)を活かして、動画による双方向コミュニケーション・サポートを考案。利用者の感情と、キャラクター動画の動作・仕草・表情を連動させるデータベースを創造し、簡易動画作成ソフト、音声通話システム「スマートアバター® SmartAvatar®」を開発した。

【有限会社BOND 代表取締役】

事業名

キャラクター動画が、あっという間に作成できるソフトウェア「Smart Avatar®」の開発・販売

事業概要

「スマートアバター® SmartAvatar®」を使って、キャラクター動画が誰でも簡単に、早く、何度でも作成でき、複数端末に同時配信できるICTサービスの提供。

セリフを入力するだけで、感情類型データベースがキャラクターの感情表現を自動的に演出する(特許取得済)。

誰でもキャラクターと音声通話でコミュニケーションできるシステムの開発・販売(BtoB)、ならびに感情パターンにあわせたキャラクター動画を表示し、音声で通話ができるサービスの無償提供(CtoC)を通し、キャラクターによる動画であらゆるコミュニケーションを少額課金で可能とするサービスの展開を図る。

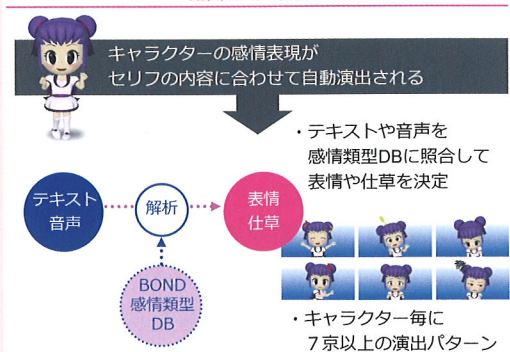
さまざまなコミュニケーションシーンで利用できる汎用性の高いBONDの「スマートアバター® SmartAvatar®」を、今後ビッグデータとも連動させ、アバターが人に代わって生活を支援したり、生活弱者・観光弱者・復興支援など世の中の意思疎通に関わる問題を解決していくことを事業のゴールとしている。

1億人のための動画コミュニケーションソフト

キャラクター動画が、あっという間に作成できるソフトウェア
Smart Avatar® の開発・販売



動画生成の仕組み



the bond of friends
BOND



た な か み わ
田中 美和

東京都

略歴 慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、2001年に日経ホーム出版社(現 日経BP社)入社。主に働く女性向け情報誌「日経ウーマン」の企画・取材・編集・執筆に携わる。キャリアインタビューや、アンケート分析などを通じてのべ3万人以上の働く女性たちの声に接する。2009年に米国CCE, Inc. 認定GCDF-Japan キャリアカウンセラーの資格を取得。女性が自分らしく前向きに働き続けるためのサポートを行うべく2012年に退職。2013年株式会社Warisを共同創業。

【株式会社Waris 代表取締役】

事業名

ハイスキルマザーの力を活用した 業務アウトソーシングサービス事業

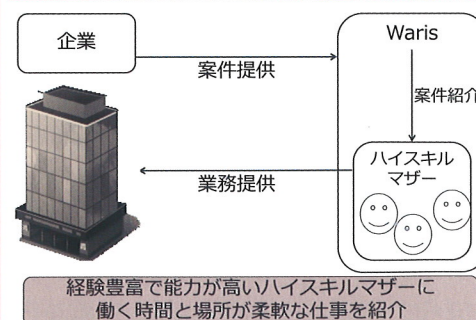
事業概要

夫の転勤・育児・介護などさまざまな事情により、フルタイム正社員という固定化した働き方を変えたいハイキャリア層の女性(=ハイスキルマザー)と、優秀な外部人材を活用したい企業とを結び、女性に仕事を、企業に事業スピード向上のための迅速な人材配置の実現を提供する。

ビジネスモデルは、まずハイスキルマザーがウェブでWarisに登録。Warisは、マーケティング・人事・法務・会計・経理・広報などの文系ホワイトカラーが担う上流工程の業務を企業より請け負い、登録したハイスキルマザーへ再委託する。

独自開発のアセスメントシートと面談によってハイスキルマザーのスキルを的確に把握し、企業側に対しては綿密なコンサルテーションで業務の切り出しを行うのが特長。時間や場所にとらわれない自由で柔軟な働き方を提供することで、一人一人がライフステージの変化に合わせた最適な働き方を選択し、生き生きと働き続けられる世の中を実現する。

■ 事業紹介 ～仕事とハイスキルマザーをマッチング～ Waris



■ ハイスキルマザーの特徴

Waris

平均年齢38歳

事業会社の総合職および
コンサルティングファーム出身

リーダーからマネージャークラス

未就労期間1年未満が約8割

Waris

ファイナリスト紹介 (発表順、敬称略)



はしもと まさこ
橋本 昌子

石川県

略歴 薬剤師として病院、製薬会社、薬局に勤務したあと2008年に起業。日本一親切な薬局を目指し、地域に根差した薬局を展開。2013年に有料老人ホーム「ひなの家」を開設。医療と介護をつなぎ最期まで安心して暮らせる家をコンセプトに多職種での入居者の支援を実践している。現在、薬局11店舗、有料老人ホーム1棟を運営。起業から6年間で社員数は80名をこえ、医療や介護を担う人材育成に力を入れている。現在、金沢大学大学院薬学博士課程に在籍し、薬剤師の在宅医療をテーマとした研究も行っている。薬剤師、介護支援専門員。
【株式会社スパーク 代表取締役】

事業名

医療・介護・教育のコラボレーションで高齢者が自分らしく人生を終えるための支援

事業概要

現在、日本の高齢化率は24%を超え介護が必要な高齢者が急増している。しかし一方で医療や介護が必要な高齢者が、自分らしく生活することが困難な状況も増えている。

そこで薬局経営や在宅医療をすすめてきた経験から、高齢になっても医療が必要になっても最期まで自分の時間を大切に生きる支援を行うため、有料老人ホームを開設した。緩和ケアや認知症ケアを実施、現状の身体機能をできる限り維持。終末期には安らぎある最期を迎えてもらうように多職種（医師、看護師、介護士、薬剤師）で支える。

住み慣れた生活圏内で、必要な医療・介護・予防・生活支援・すまいが、包括的・組織的に行われるための地域包括ケアシステムを、薬剤師の立場で推進している。

2013年度全国商工会議所女性会 女性起業家大賞 グロース部門優秀賞受賞、2013年いしかわ女性のチャレンジ賞 個人部門受賞。



 株式会社スパーク

ひきちめぐみ 引地 恵

宮城県



略歴 宮城教育大学大学院卒業。大日本印刷株式会社勤務を経て宮城県亶理町職員となり、社会教育主事・学芸員として地域づくりや民俗調査に関わる。2012年3月に退職し亶理町に一般社団法人WATALISを設立。地域に受け継がれる返礼文化や感謝しあう価値観・縫製技術によるものづくりを通して世界に発信し、亶理発のグローバルブランドを創る。亶理町史民俗編調査・執筆者。平成26年度内閣府地域活性化伝道師。平成25年復興庁主催REVIVE JAPAN CUP 大賞、eco japan cup 入賞。

【一般社団法人WATALIS 代表理事】

事業名

中古着物地によるリメイク雑貨製造販売事業 ～感謝を包む手仕事でグローバルブランドを創る～

事業概要

東日本大震災の被災地域である宮城県亶理町において、崩壊した地域コミュニティの再構築と、就労に制約のある女性たちが自らの持つ技術を活かし、より輝ける人生を歩むためのフィールドづくりを行う。

全国から寄せられた着物地を地域の女性たちの手で加工し、リメイク雑貨商品を企画・製造・販売。地域に受け継がれてきた文化や人々の思いを商品という形にし、さまざまな世代の女性たちがその製作者となることで、地域社会が潜在的に持つ高齢者の知恵や縫製技術などの人的パワーを掘り起こし、次世代に受け継ぐ。

また、箆笥に眠る着物地を素材とした商品作りを通して、リサイクル素材の価値を高めて再び市場に投入する「アップサイクル文化」を醸成するとともに、繊維のリサイクル率向上を図る。『みやぎらしい女性の就労モデル』を創り出し、女性たちが自らの手で地域課題を解決。地域住民が主体性を持ち、復興を目指す推進力とする。



WATALIS

ファイナリスト紹介 (発表順、敬称略)



よしだ りえ 吉田 理恵

東京都

略歴 1991年バンドのキーボード奏者としてメジャーデビューし、ミリオンヒットとなる。バンド解散後は作曲家やボイストレーナーとして活動。2006年ハッピーリスを設立。2008年、音楽制作に関連して、聴診器音を携帯電話で通信する装置を開発し「電気を使わずに周波数、音圧、音の位置を変える技術」を確立。以来、生産工場における不良品発見に役立つ異音検査集音器の設計・製造受注が増加。ミュージシャンならではの音楽的発想と音響工学を結び付けた新しい発想を用いて、音で解決できる未開拓のマーケットを数々掘り起こしている。

【株式会社ハッピーリス 代表取締役】

事業名

～ハッピーな食事介助を目指して～ 「ごっくんチェッカー」の事業展開

事業概要

「ごっくんチェッカー」は、食物を飲みこんだ音をスピーカーやイヤホンで聞くことができる装置。

加齢などで飲み込みが弱くなった人の食事介助は、誤嚥に気をつけながら行う必要がある。そのため高齢者介護において食事介助は神経を使い時間負担も大きい。食事の際、「ごっくんチェッカー」を使えば、「食物を飲み込んだ音が聞こえたら次のひとくちを口に入れる」という目安になり、丁寧かつスムーズな食事介助ができる。また、食べることは生きる意欲であり、胃ろうから経口摂取へのリハビリにも役立つ。更に介護離職問題の軽減にも貢献する。

本製品は、東京医科歯科大学をはじめ、病院リハビリテーション科、高齢者施設、在宅介護ヘルパーステーションの協力により実用性テストを繰り返し、改良を重ねた。

2014年、介護、医療関係の施設・専門家・在宅介護の家族に向けて販売開始し、海外の高齢化が進んでいる国へも展開していく。

ごっくんチェッカー



食事介助を安心・スムーズに。「ごっくんチェッカー」は、スピーカーやイヤホンから飲みこみの音を聞くことができる装置です。

毎日の食事介助

訪問診療

飲みこみのトレーニング

病院、訪問診療、介護施設、在宅ヘルパーステーション、

※写真はプロタイプです
通販誌、ネットショップで
ご自宅用も

※ 積下機能評価や誤嚥状態を確認するための医療機器ではありません。

happyris

ごっくんチェッカーが貢献する社会的課題

介護離職

今の30～40代で、親の介護が必要になったら会社を辞めると答えた人は11%

在宅介護の充実

2025年団塊の世代800万人が一気に高齢者に。

高齢者も社会で活躍できるように

口から食べられなくなると、認知症が進む、病気になるやすくなる

ごっくんチェッカーが食事介助に役立ちます



happyris

happyris



たちやま みき 太刀山 美樹

福岡県

略歴 福岡大学体育学部卒業。結婚・育児を通し、各種運動プログラムを考案・指導。NHK福岡では体操コーナーを約10年間担当した。その後、親子単位での健康教育の必要性に着目し、株式会社MIKI・ファニットを2006年に設立。「諦めてる子はいないかー!」を合言葉に、ユニークな語り口で講演活動を行い、「幼児教育界のなまはげ」と呼ばれる。西日本新聞電子版に連載中のコラムは10万アクセスを越え、教材出版や「どうぶつ体操」運動アプリなどのプロデュースも手掛け、育児期の女性のロールモデルとして圧倒的存在感を誇る。

【株式会社MIKI・ファニット 代表取締役】

事業名

～未来と今を担う人材育成～ 挑戦できる子どもと親を育てる 放課後アドバンススクール「テミル™」の展開

事業概要

「小1の壁」など、働きながら子育てをする環境は課題が山積している。仕事で挑戦したい親の悩みは、子どもを預ける場所（物理的な壁）はもちろん、「子どもを預けることへの後ろめたさ」という心理的壁も大きい。

そこでMIKI・ファニットでは、子どもが自分の興味・関心に合わせて、さまざまな教材やプログラムを通して挑戦・探究できる放課後アドバンススクール「テミル™」を展開する。

安心・安全な場で子どもがチャレンジする姿を見ることにより、安心して仕事に挑戦できる親を増やす。教材・プログラムはコンパクトにパッケージ化。教室型はもとより、小規模開業（自宅型）、既存教育サービスやショッピングモール等との協働（出張型）により、従来の塾・園・教室を超えた幅広い学童サービスを展開する。また独自教育ライセンスの構築は、子育てを卒業した母親やリタイヤしたエンジニア等の高齢者に新たな雇用を創出する。



MF
MIKI FUNNIT

ファイナリスト紹介 (発表順、敬称略)



さか い り な 酒井 里奈

岩手県

略歴 国際基督教大学(ICU)卒業。富士銀行(現みずほ銀行)、ドイツ証券などに勤務し、プロジェクトファイナンス、M&A等を担当。発酵技術に興味を持って東京農業大学応用生物科学部醸造科学科に入学し、2009年3月卒業。同年、株式会社ファーメンステーションを設立。研究テーマは地産地消型バイオエタノール製造、未利用資源の有効活用技術の開発。日本起業家賞2014ファイナリスト。好きな微生物は麹菌、好きな発酵飲料はビール。

【株式会社ファーメンステーション 代表取締役】

事業名

**独自の発酵技術を活用した米エタノールビジネス
～バイオマス、未利用資源を活用して
高付加価値プロダクツを生み出す～**

事業概要

独自の発酵技術を活用し、米やバイオマス、未利用資源を原料にエタノールを製造・販売、エタノールの高付加価値化により収益性の高い小規模地域循環システムを構築する事業。

具体的には、(1)独自の手法により生成される香りの良い高品質エタノールを化粧品、雑貨などの原料として販売(2)小型で安価な装置を用いたシステムを農業法人、自治体等に対して販売(3)高品質エタノールやエタノール蒸留後に発生する米もろみ粕を利用した化粧品・雑貨をハイエンドなプロダクトとして一般消費者向けに販売する事業の3本建ての事業展開。

現在、岩手県奥州に製造拠点を保有、米からエタノールを製造している。岩手の米から作ったエタノールを化粧品原料等として販売している他、一般消費者向けに「お米でできた消臭スプレーコメッシュ」洗顔石けん「奥州サボン」を販売している。

国内の水田の利活用や、未利用資源を活用する地域循環社会の構築が期待される中、収益性の高い小規模地域循環事業を国内外で展開させることを目指す。



FERMENSTATION
Co.,Ltd.
Fermenting a Renewable Society

み たらい たま こ 御手洗 瑞子

宮城県



略歴 東京大学経済学部卒業。経営コンサルティング会社のマッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社にコンサルタントとして勤めた後、2010年にブータン政府初代首相フェローに就任。ブータンの経済的自立を目指して、観光産業の育成に従事する。東日本大震災をきっかけに帰国し、2012年6月より気仙沼ニットイングプロジェクトを開始。2013年6月に株式会社気仙沼ニットイングを設立し、代表取締役社長に就任する。東京生まれ。

【株式会社気仙沼ニットイング 代表取締役】

事業名

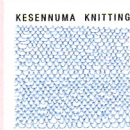
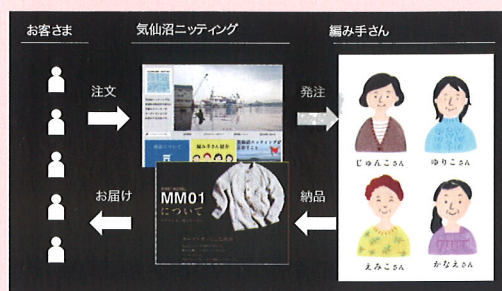
気仙沼を拠点とし、ハイエンドな手編みのセーター・カーディガンの企画・製造・販売を行う事業

事業概要

東日本大震災をきっかけに創業し、気仙沼を拠点に手編みのセーター等の企画・製造・販売を行う。

一時的な復興需要が去った後も持続的に地域に収益をもたらし、働く人が「誇り」を持てる産業となるべく、設立当初より「ハイエンド・ブランド」として事業展開している。遠洋漁業の港町である気仙沼では伝統的に、漁師のセーターを編む等の習慣があったため「編む」という行為に親しく地域文化との親和性の高い事業。

気仙沼の編み手が編むオーダーメイドのカーディガンやプレタポルテのセーターを販売しており、価格帯は7~15万円程度。「一生ものの服がほしい」「子どもにまで継げる服がほしい」というお客さまからの注文が多く、生産できる量を超えた注文を頂いているため、商品は抽選販売・先着販売の形式をとっている。また「気仙沼に親戚ができたみたい」と編み手との交流を楽しみ、気仙沼までいらっしゃるお客さまも多い。



ファイナリスト紹介 (発表順、敬称略)



やのりえ 矢野 莉恵

ニューヨーク州

略歴 上智大学比較文化学部卒。2004年三菱商事入社、広報部報道チーム在籍。2005年秋より米国三菱商事NY本社に1年半トレーニー駐在。2008年よりハーバードビジネススクールに留学し、経営学修士取得。2010年より米コーチNY本社デジタルメディアマーケティング部マネジャーとして同社Eコマース並びにデジタルコンテンツに従事。2012年6月よりマテリアルワールドの共同代表としてNYを拠点に活動中。

【Material Wrld, Inc. 代表取締役】

事業名

ファッション業界と直接組み、ラグジュアリーファッションを百貨店やブランドのギフトカードで買い取り、新規購入を促す業界初のトレードイン事業

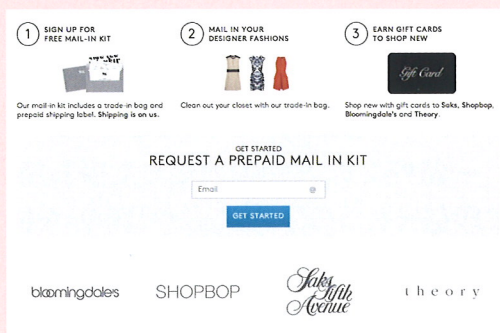
事業概要

トレードイン事業は自動車や電化製品等では普及しているが、ファッション業界では存在しない。

Material Wrldはファッション業界とユーズド市場の架け橋となるトレードイン事業を展開する事により、消費者にとってより便利、安心で高リターンなサービスを提供しながら、中古市場の利益をファッション業界に還元するモデルに取り組んでいる。

ユーザーは、Material Wrldのサイトより郵送キットを申し込み、着なくなった衣類を返送代も含まれた郵送キットに入れ、電話一本入れるだけで手続き終了。キットが届き次第、2-3営業日以内にオフア額を大手百貨店ギフトカードとして提供する事により、ユーザーは直ぐに買物を楽しめる。

ビジネスモデルとしては、ファッション業界と直接組む事により、顧客獲得コストを低く抑える他、ギフトカードを安く入手する為、売値の高い中古ラグジュアリー商品を販売する際に他社より高い利益率を維持する事が可能である。



審査結果発表・表彰式

日時 2014年6月19日(木) 14:00~18:30 (開場 13:30)
会場 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー 3Fカンファレンスセンター
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-7 電話:03-6225-2661
[ホール1・2] I部およびII部 [ホワイエ] III部
主催 株式会社 日本政策投資銀行
後援 内閣府、経済産業省、中小企業庁、株式会社東京証券取引所

プログラム (一部変更の場合がございます)

第I部 ● 14:00~15:30 オープニング・開会挨拶

キーノートスピーチ

株式会社ローソン
取締役 会長

新浪 剛史 氏

ファイナリストによるプレゼンテーション

(休憩)

第II部 ● 15:45~17:15 来賓挨拶

DBJの女性起業支援

第2回受賞者のメンタリング報告

審査結果発表・表彰

審査委員長講評

(休憩)

第III部 ● 17:30~18:30 レセプション

お問い合わせ

株式会社 日本政策投資銀行 女性起業サポートセンター(DBJ-WEC)

DBJ女性新ビジネスプランコンペティション事務局

〒100-8178 東京都千代田区大手町1-9-6 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー

TEL:03-3244-1652(センター代表)

<http://www.dbj.jp/service/advisory/wec/>